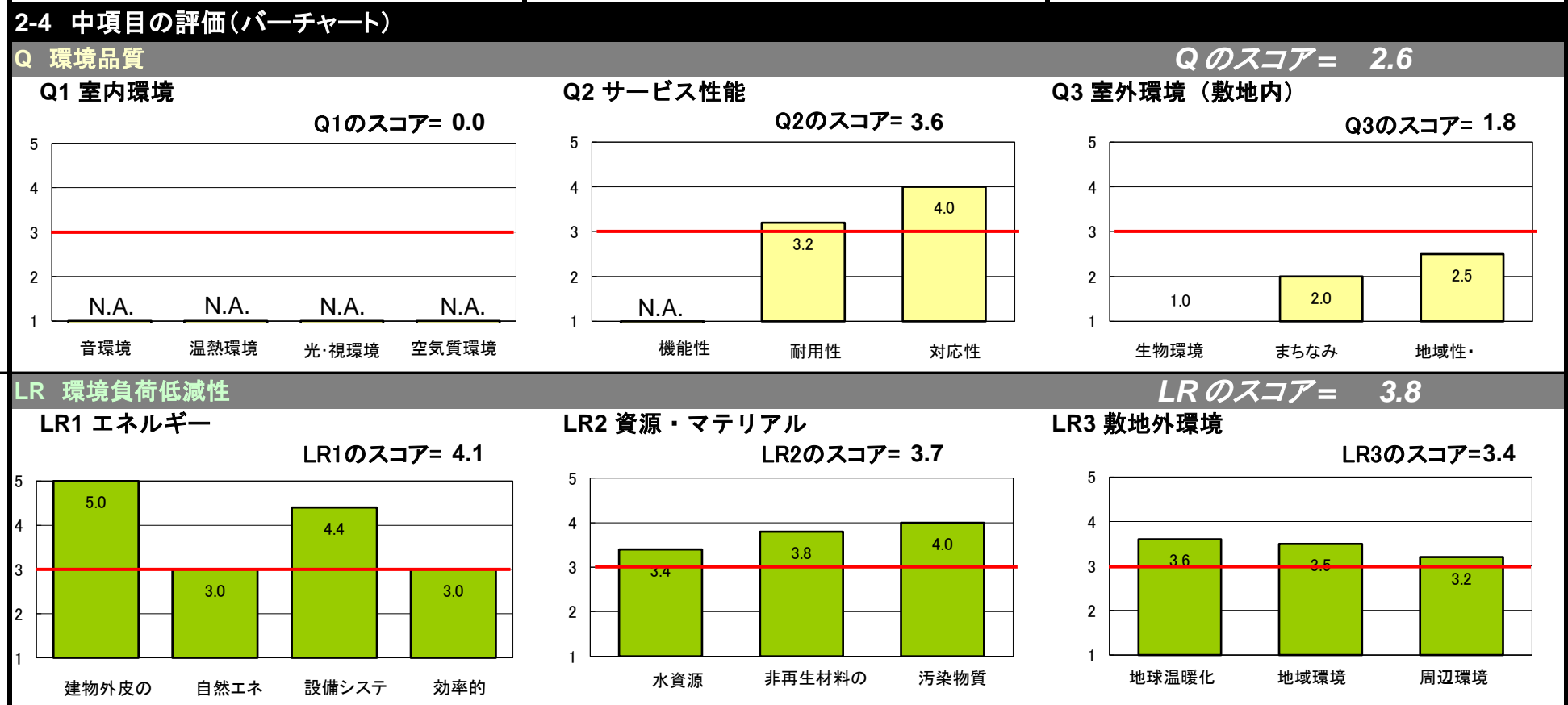
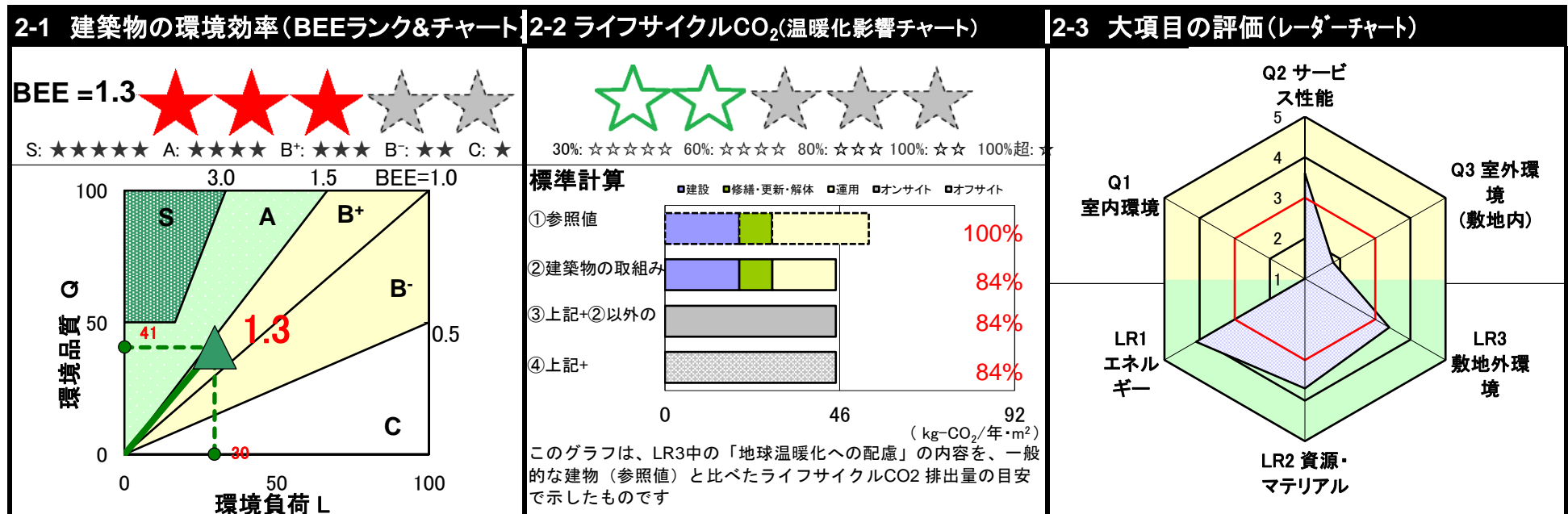


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	キョーワ株式会社名古屋配送センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県安城市東栄町7丁目3-1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	12人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年10月 予定	評価の実施日	2022年12月14日
敷地面積	4,016 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社 北陸・信越 建築一級建築士事務所 川崎 智也
建築面積	2,323 m ²	確認日	2022年12月14日
延床面積	2,509 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 北陸・信越 建築一級建築士事務所 川崎 智也



3 重点項目

① 地球温暖化への配慮	③ 敷地内の緑化
3.6	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.0 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
② 資源の有効活用	④ 地域材の活用
3.6	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 キョーワ株式会社名古屋配送センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 パリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	3.2	0.52	-	-	-	3.2	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	4.0	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	GL鋼板35年	-	5.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		内装仕上げ材ビニルクロス15年	-	4.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ダクトにステンレスを使用し長寿命化を図っている	-	5.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.8	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.093	3.0	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			積載加重4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11				
4	通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	3.0	5.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.68	3.0	5.0	0.20				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.66	3.0	4.4	0.50				4.4
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-				
4.2	運用管理体制			-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			泡沫水栓、節水型トイレの使用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	床:磁器質タイルQF104 塩ビシート20FL1506 天井:ダイロートン	3.0	5.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.0	0.22	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			PRTR法の対象物質を含有しない建材種別を確認	3.0	4.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		発泡断熱材を使用しない(グラスウール)	-	5.0	0.50				
3	冷媒			3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			ガス燃焼機器を使用しない	-	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	駐車場及び荷捌き車両のスペースを確保している	-	4.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00				
2	振動	独自		-	-	-				
3	悪臭			-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			-	-	-				
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない	-	5.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

キョーワ株式会社名古屋配送センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 キョーワ株式会社名古屋配送センター

計画上の配慮事項	
総合	グリーン購入法適合商品を積極的に採用する
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	耐用年数の長い部材を採用している
Q3 室外環境(敷地内)	見通しのよいメッシュフェンスとし、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	BEI=0.66
LR2 資源・マテリアル	節水型器具の採用により水資源の保護に配慮している
LR3 敷地外環境	敷地内の駐車場の整備による交通負荷の抑制
その他	特になし